

祝 詞

皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

皆さんの卒業式は、令和時代初回の式として、2020年、東京オリンピックパラリンピック開催年というメモリアルイヤー、時代の転換点における卒業式となりました。

新型コロナウイルスの影響の為、直接申し上げられなくなりましたが、お祝いに1つだけ申し上げます。ありきたりの事です。

どうか「今胸にある自分だけの思い」を大切にしてください。

皆さんの今日の日の思い。私は、人生の大きな節目の時にしか見えない光景、心象風景があると思っています。皆さんにとって今日という日は、例えて言うなら15年をかけて、高原山の頂にたどり着き、遙かな未来をパノラマのように見渡している、そんな時に当たるのかも知れません。皆さんの前に大きく広がる未来。皆さんはどの方向にも進んでいくことができます。

皆さんには、今日、自分自身の未来に向けてどんな光景が浮かんでいるのでしょうか。

人が何かを成し遂げる時、まずは、どの方向を向いて、どう進んで行くのかという思いから、全てが始まると言ってもいいと思います。人生の羅針盤があるとすればどんな針路をとるのか。それが手に取るように見えるのが今日という節目の日であると思います。

いや、何も見えない、霧の中という人は、急な登り坂にさしかかっているのかもしれない。

そして4月になって新たにスタートし、歩き出すと、やがて遙かな眺望は消え、目の前のことが迫ってくる日々となります。道は多分、すべからく上り坂です。藪の中に突っ込んだように、目の前が見えなくなることもあるかもしれない。そんな時に、遙かに見渡せる今日、この時の光景や思い、いわば人生の羅針盤を心に蘇らせると良いのかもしれない。

皆さんは今、成長の真っ只中にいます。限りない可能性を持っています。皆さんが自分の思うことに懸命に打ち込み、素晴らしい人生を築いていかれることを心から願います。

令和2年3月7日

さくら市長 花塚 隆志